

突撃取材

学生広報サポーターいちレボとゼフィが

「アサヒの森 共創ゼミ」 参加学生に取材しました!!



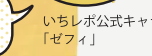
「アサヒの森共創ゼミ」とは、2022年度よりアサヒグループと共同で始動した有志ゼミです。約半年間の活動で、学生は森林に関する講義を受講し、アサヒの森を訪れるなどのフィールドワークも行います。森を身近に感じてもらいつつ、デザインの力で森の大切さを表現することがゼミの課題です。2023年度は「森の循環」をテーマに、水/空気/土/命の循環を子どもたちに伝えるデジタルコンテンツを制作しました。

今回は9月に行われた中間報告会で取材をしました。いちレボ公式キャラクター、西風の神様「ゼフィ」のご紹介も兼ねて、学生とのインタビュー形式でお届けします!

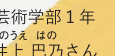
いちレボ公式キャラクターのゼフィだ!メンバーと一緒に、ゼミに参加している芸術学部1年の井上 巴乃ちゃんに取材をするよ。



巴乃ちゃんは、なんでこのゼミに参加したの?



私の高校では入学、卒業祝いの黑板报を描くのが定番で、それが大好きでした!大学でも同じように人と一緒に作品づくりがしたかったので、チャンスだと思い参加しました!



芸術学部1年 井上 巴乃さん

ふむふむ!共創ゼミではどんなことしてるの?



アサヒの森を訪れたときは森で薪割りをするという貴重な体験をしました!作品制作では同じ芸術学部の同級生6人で一緒にチームになって動画づくりに挑戦しています。

普段の作品制作ではほぼ1人で進めていくので、みんなで支え合いながら制作を進めていくことは新鮮でもとても楽しいです。苦手なところをメンバー同士で補い合えるのも心強いです!

確かに9月の中間報告会では、チームメンバーと楽しそうに作品のラフ画像をみんなに見せてたね。巴乃ちゃんはどうな作品をつくったの?

私たちはRPG風の作品を作っています!キャラクター案、セリフをそれぞれ担当箇所を割り振って、報告会ではひと通りのシナリオを完成させて発表することができました。私が担当したのは右のキャラクターです!



他のチームは、人形を作ってコマ撮りで撮影したり、手書きのイラストをアニメーションにしたりと、とても個性豊かです!みんなの作品の完成が楽しみです!

What's Ichirebo?

巴乃ちゃんありがとう!制作した作品はいちレボのみんなが取材してるから、SNSからぜひのぞいてみてほしいんだ!



この記事は、学生の目線から本学の魅力を発信することを目的に活動している、学生広報サポーター「いちレボ」の広報誌が作成しました。

編集統括 : 国際学部4年 西口 真優華
ライティング : 国際学部3年 藤井 美風
デザイン : 芸術学部1年 松浦 真菜
企画 : TEAM ICHIREPO 広報誌班



6 公開講座 いちだいサイエンスパーク



情報科学への興味向上や理解促進を目的として、小中学生を対象に、科学実験やプログラミング体験など、科学の不思議や楽しさを体験する機会を提供しています。2022年度はショッピングモールで開催し、同伴家族を含む1,171名が参加しました。

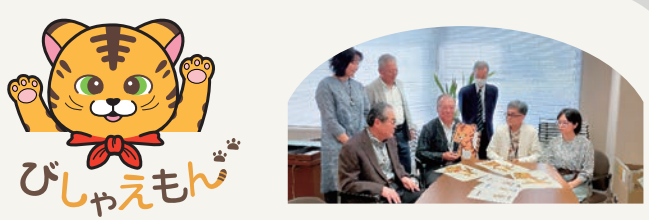
7 公開講座 市大英語e-ラーニング講座

独自のe-ラーニング英語学習システムを利用し、「リーディング・リスニング・文法」「スピーキング」「ライティング」「小学校英語教育指導者養成」「通訳ガイド養成」の各プログラムを学習する市民対象の自習型講座。英語の「学び直し」の機会となっています。

8 公開講座 広島市立大学 芸術学部サマースクール



美術系大学進学希望の中学生・高校生などを対象にサマースクールを開講しています。将来、美術家、工芸家、デザイナーを目指すために必要な基礎実技プログラム、美術系大学への進学相談などを各専攻で開催します。2023年度は全5コース、110名が参加しました。



あどけない表情やポーズが特徴で、地域で募集、選考して「毘沙門門(びしゃもん)」と名付けられました。トラが、地元で親しまれる「毘沙門天」の使いとされることにちなんで、その見習いとの設定です。地域の広報媒体や行事でTシャツや法被に印刷されるなどして、活用されています。

毘沙門台学区社会福祉協議会
瀬川 龍男 会長

住民に親しまれる地域のシンボルを作りたいと思い、デザインをお願いしました。このキャラクターを軸に若い世代も巻き込み、地域活動の担い手を増やすとともに地域のシンボルとして幟旗等を作成し、もろもろの活動の機会に活用したいと思います。

芸術学部デザイン工芸学科
視覚造形分野 非常勤助教
大連寺 ダニカさん

地域のさまざまな方に愛される子になるようにという思いを込めて考えました。これから、びしゃもんが毘沙門台の町で活躍する姿を楽しみにしています。

5 公開講座 高校生による 情報科学自由研究



コンピュータやインターネット、プログラミング、コンピュータグラフィックスをはじめとする情報科学に興味のある高校生を募集し、楽しみながら情報科学への興味や知識が深められるように、研究活動をサポートします。2023年度は7月から8月にかけて全14テーマ、108名が参加しました。



4 受託研究 びしゃえもん

2022年度、広島市安佐南区の毘沙門台学区社会福祉協議会から地域のマスコットキャラクターデザインを依頼されました。地域のお祭りである毘沙門さんの「初寅祭」にちなんで、トラのキャラクターにしてもらいたいというご要望を伺い、芸術学部の納島 正弘教授を代表教員とするプロジェクトでデザインしました。



大崎下島と空き家の一例 (旧医院)



学生による
リノベーション作業

つだけある保育所で子どもたちに絵本の読み聞かせをしたり、地域住民と協働で空き家をリノベーションし、作品制作や展示に活用するスペースを作りました。学生が空き家問題や過疎化する島の現状を現地活動や地域との交流を通じて学び、課題に向き合いながら地域の活性化に関わっていくプロジェクトを実施しています。



学生による企画展
「てとてと。」展示風景

地域展開型芸術プロジェクト

広島広域都市圏の持続的発展や地域社会の活性化に貢献するため、芸術学部を中心にアートやデザインを介した教育研究に取り組んでいます。

学生や教員がプロジェクトへの参加を通じて、さまざまな地域の特性や歴史・文化を学びながら、地域に対して興味を持つきっかけを作り、アートやデザイン活動による地域課題の解決や魅力づくり、地域産業の活性化に貢献しています。

詳しくはこちら



1 地域展開型芸術プロジェクト たたらプロジェクト



煉瓦造りの
反射炉の煙突が今も残る

プロジェクトの目的

広島県や島根県を中心とした中国山地には、かつて鉄の古式製造法である「たたら製鉄」が盛んで、現在もその跡地が多数存在します。この地域で古くから行われてきた「たたら製鉄」の歴史や文化を学び、鉄の魅力を地域に伝える取り組みを行いました。

実施内容

本プロジェクトでは、学生が安芸太田町加計地域に点在するたたら場跡地や民俗資料館などを実際に訪れ、「たたら製鉄」の歴史や文化を学んだ上で、本学で学ぶ金属造形の技術を生かしながら、地域に根ざした作品制作と自由な発想での制作に挑戦しました。



「鍛冶屋館」内の
農林業道具など見学

2 地域展開型芸術プロジェクト とびしまプロジェクト

プロジェクトの目的

社会連携センターの三上 賢治特任講師が、2019年から広島県呉市豊町御手洗(大崎下島)の重要伝統的建造物群保存地区にある空き家を活用し、地域と協働しながら学生や卒業生のアーティストによるアート活動を通じた地域の魅力づくりに取り組んでいます。

実施内容

美しい瀬戸内の自然環境と歴史的建築物に囲まれた中で、地域内外の人と交流しながら、街歩きと芸術をつなげるアートイベント「みたらいアートウォーク」を毎年開催しています。2022年は芸術学部有志の学生による企画展「てとてと。」を開催。また、夏休みに国際学部、情報科学部の学生が参加し、島に



新たな地域交流拠点

地域交流を通じたにぎわいづくり

しくにぎわいのある空間の実現を目指しています。DIYに興味のある学生は、お気軽にお問い合わせください。また、2024年にプロジェクト10周年を迎えるため、現在特別イベントを企画しています。

基町プロジェクト
についてはこちら



市大の 地域貢献

8選

「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を建学の基本理念としている本学は、広島市の公立大学として、地域と共生し、市民の誇りとなる大学を目指しています。ここでは、本学の地域貢献活動の事例の一部を紹介します。

3 広島市立大学×広島市中区役所 基町プロジェクト

プロジェクトの目的

基町地区の活性化やにぎわいづくりのため、広島市立大学と中区役所の連携により、若者が主体となった創造的な文化芸術活動や地域交流を通じて、基町地区の活性化に取り組んでいます。

実施内容

芸術学部の中村 圭准教授が中心となり、基町に活動拠点を開設し、「基町から広島の復興と創造を発信する」をテーマに、「まなぶ」「つくる」「つなぐ」の3つの方向で取り組みを展開しています。2024年に開業するサッカースタジアムに隣接する場所に、基町プロジェクトの6つ目の活動拠点となる、新たな地域交流拠点を整備中です。大学や学生が関わるからこそできる楽

丁寧に
一人ひとりを大事に
社会との関わりの中で
学生を育てます



すざもりきょうか
杉森 杏香 (芸術学部美術学科彫刻専攻)
2022年度卒業作品優秀賞・芸術資料館賞
「逃走者たち」
H350mm×W280mm×D440mm 大理石

活躍する市大人

在学生、卒業生を問わず、国内外のさまざまな分野で活躍する「市大人」を紹介します。

出会いを大切に

経済産業省 商務・サービスグループ サービス政策課 教育産業室(広島県教育委員会からの出向)
(国際学部国際学科 2011年度卒業) 伊折 千佳さん

国際学部を卒業し、民間企業での勤務を経て広島県職員となり、現在は経済産業省に出向中の伊折さんに現在のお仕事や学生時代についてお話を伺いました。

一現在のお仕事の内容について教えてください。

現在は経済産業省(広島県教育委員会からの出向)で、教育現場へ民間企業のテクノロジーやノウハウを活用してもらうべく、実証事業や補助金交付事業の執行や教員および教育委員会の職員の方々に向けたイベントの開催に携わっています。いろいろな自治体に伺い、教育委員会や学校現場が感じている課題について伺いながら、今年度はもちろん次年度以降の事業に生かせるように毎日が勉強の日々を送っています。

一現在のお仕事はどのような経緯で選ばれたのでしょうか。

大学を卒業し、民間企業に数年間勤務しました。会計や法務、官民連携事業の提案および運営等、さまざまな分野の業務に携わる中で、自分の経験を生まれ育った広島県で生かしたいと考えるようになり、広島県職員の社会人経験者向けの採用試験にチャレンジしました。

一現在のお仕事についてやりがいを感ずるところを教えてください。

民間企業の方と一緒に新しい取り組みを始めるときは、非常にやりがいを感じます。ゴールまでにさまざまな調整や準備が必要ですが、新しい取り組みによって、さらに官民連携が進み、より良い行政につながるのではないかと考え、慎重に準備は行いつつ、大胆な発想を取り入れながら、より斬新な取り組みを考案していきたいと日々考えています。特に、現在の所属では、以前よりさらに多くの民間企業や他自治体の方と接する機会があり、非常に刺激的に感じています。

一大学時代にはどのようなことを学びましたか。また大学時代の思い出を教えてください。

大学時代は、NPO・公共政策プログラムを専攻し、経済学を中心に学びました。正直にお話すると、大学時代は必要最低限の科目の授業を履修し、アルバイト等に明け暮れていました。今振り返ると、特に英語をもっとしっかり勉強しておけばよかったと少し後悔しています。このように、決して真面目な学生ではありませんでしたが、卒業してからも大学時代の恩師と定期的にお会いし、転職の際も相談に乗っていただきました。

一市大で学んだことで、仕事に生かされていることがあれば教えてください。

市大では少人数のゼミが開催されていました。自由に発言できる雰囲気があり、間違いを恐れず自分なりの意見を持って発言しても、先生方や学生たちは受け入れ、活発な議論につなげてくれてい

たように思い出します。業務の中で初めて取り組む内容であっても、自分なりに調べて、意見を持つこと、そしてそれについて臆することなく聞いてみることは、大学時代に学んだ重要なことの一つであり、自分の業務にも生かされていると実感しています。

一市大のいいところを教えてください。

他大学にない魅力は、先生と学生の距離の近さではないでしょうか。自分が卒業した後に初めて聞けるような貴重な話もあるので、在学生の皆さんはぜひ先生方といろいろなお話をし、在学中や卒業後も交流を深めてください。

一学生生活の中で取り組んでよかったことはありますか。

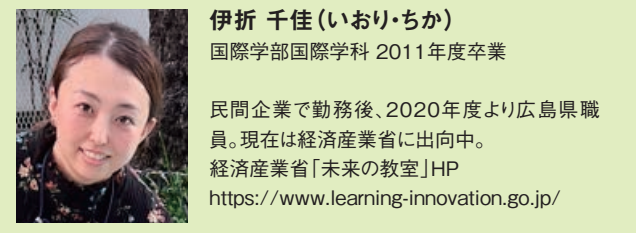
もう少し熱心に勉強しておけばよかったと思う一方、学外でもアルバイト等多くの社会人の方々と接した経験が、就職活動はもちろんですが、卒業後に働き始めてからも生かすことができていると思います。

一今後の活動予定や、目標があれば教えてください。

出向終了後に広島県に戻り、県職員として働く予定ですが、できるだけ長く勤務して、広島県が誰にとっても住みやすい県となるよう尽力したいです。何歳になっても、後輩や部下から気軽に相談されるような、親近感を持ってもらえる職員でありたいです。

一最後に後輩たちへメッセージをお願いします。

大学時代は多くの方が一度しか経験されないと思うので、後悔のないよう、勉強に限らず多くのことにチャレンジしてください！勉強だけでなく、アルバイトや部活、留学など、自分が熱中できるものに、とことん取り組んでみてください。大学生だからできること、会える人、入れる場所…たくさんあります。ずっと走り続けると疲れてしまうので、リラックスしながらそれぞれの大学生活を思いっきり楽しんでください。そして出会った方々とのご縁は、ぜひ大切にしてください。いつか自分の助けになる日が来るはずですよ。後輩の皆さんと一緒にお仕事できる機会があることを、楽しみにしています。



伊折 千佳(いおり・ちか)
国際学部国際学科 2011年度卒業

民間企業で勤務後、2020年度より広島県職員。現在は経済産業省に出向中。
経済産業省「未来の教室」HP
https://www.learning-innovation.go.jp/

留学体験記

本学では海外学術交流協定大学等との活発な交流・学生交換留学を推進しています。

ドイツ・ハノーバー専科大学
(ハノーバー専科大学第4学部とのダブル・マスター・ディグリープログラム)

今からでも何かできることを

情報科学研究科システム工学専攻(博士前期課程)2年 新田 実咲

私が学部3年生の頃、本学にダブル・マスター・ディグリープログラムがあることを知りました。このプログラムは、大学院1年後期の半年間をドイツのハノーバー専科大学で過ごし、修了年度を遅らせることなく両大学の学位を取得するというものです。今までの大学生生活を振り返ったとき、自分はこの大学生活で何も成し遂げず、ただラダラと卒業に向かっていてのではないかとという焦りを覚えました。そして、今からでも何かできることがあるのではと考えていたとき、このプログラムを思い出し、留学を決意しました。

ハノーバー専科大学は、多くの留学生がいる大学でした。現地では寮で生活をしており、部屋は個別でしたが、キッチンとシャワー、トイレが共用だったため、毎日料理をするタイミングで同じフロアの人たちと話すきっかけが、寮内でも友達ができました。また、留学生同士との交流を大学側がサポートしてくれるため、他の国の留学生同士で仲良くなれました。半年間という短いようで長い期間を楽しく過ごせたのには、現地ですべての友達との存在が大きかったと思います。

留学に先立って1年間、細々と英語学習をして、TOEICのスコアを500点から600点を超えられるようにしておきました。しかし、いざ留学して話そうとすると、3割程度しか自分の思いを伝えられず、歯痒い思いをしました。留学中は、誰も自分を助けてくれませんが、自分の思いは言わないと察してもらえません。最初は身振り手振りを交えて、何度も言い直して伝えることで、どのように話したら伝わるのかを自然に少しずつ学ぶことができました。恥ずかしがらずに諦めず話し続けたことで、語学力が向上し、友達もたくさんできたので、良い留学経験だったといえると思います。



各国の料理を持ち寄ったパーティーにて(右から4人目が新田さん)

フランス・オルレアン大学
(海外学術交流協定大学への派遣留学)

心にずっと残したい大切な経験

国際学部国際学科4年 土岐 つぐみ

オルレアン大学のあるオルレアン市は、自然も多く、穏やかでとても過ごしやすいです。また、パリまでは電車で1時間程度なので気軽に行くことができます。大学はとても広く、初めのころは地図アプリを使いながら通っていました。

今回フランスに留学するまで海外経験ゼロだったため、不安も大きかったのですが、人やインターネットの助けを借りながら生活できました。だいたい何とかなると強く感じました。

多様なバックグラウンドを持つ人たちと出会い交流できたことは、語学力の向上はもちろん、とても大きな収穫になりました。教科書やテレビで見たことがあっただけの外国の文化について話を聞いたり実際に肌で感じたりしたことで、自分の常識は他人の非常識ということを強く感じました。クラスメートは、アジア・アメリカ・アフリカ・ヨーロッパ出身で、国際色豊かな学生と日々を過ごすことができました。生まれた国も言語も異なる人たちと、フランス語という共通の言語を使って交流できたことは、今思い出すと少し不思議に感じますが、とても貴重な経験です。フランス語を学んでいなかったら、留学をしていなかったら、この出会いは無かったのかと思うと、勇気を出して留学をして良かったと強く思います。

9カ月間という短い期間でしたが、これまでの人生の中で一番刺激的で充実した時間だったと感じます。フランス留学での経験や思い出を大切に今後生き方を豊かにしたいです。



学期末に撮ったクラスメートとの写真(右から4人目が土岐さん)

研究室紹介

地域のモノづくりの環とつながること

芸術学部デザイン工芸学科漆造形 准教授 青木 伸介

私の研究領域は、漆工芸の中でも主に乾漆造形です。よく知られた作品には、興福寺の八部衆立像があります。古くから器物の胎としても使われています。素材は麻布や和紙を使い、漆を接着剤にして張り重ねることで、軽くて丈夫な造形となります。とても魅力あるものです。近年、環境負荷としてプラスチックゴミが大きな社会問題となっていますが、植物から得られる素材を使い、日本の伝統的な製法から作られる工芸品は、環境問題の観点からも見直されつつあります。

研究室で行っている和紙と漆のプロジェクトでは、江戸時代から400年同じ製法で作られている大竹和紙を取り上げています。大竹市防塵にある工房へ学生とともに足繁く通い、コウゾの栽培と収穫、紙料になるまでの加工から流しすきの和紙づくりまでの工程に携わり、保存会や地域住民の方々と交流しながら、地域の伝統工芸の継承活動を行っています。

市大ニュース

2023年度特待生が決定

2023年6月、学部2〜4年の各年次から、国際学部2名ずつ、情報科学部4名ずつ、芸術学部2名ずつ、計24名の学生が選ばれました。特待生制度では、成績優秀で、かつ他の学生の模範となる学生を表彰、副賞として奨学金が贈られます。

台湾・国立台中科技大学の学生が来学

2023年7月、学術交流協定校の台湾・国立台中科技大学応用日本語学科から学生15名と引率教員2名が来学し、国際学生寮「さくら」に宿泊して、平和学習や授業体験などのプログラムに参加しました。

国境なき医師団インターナショナル会長来日記念講演を開催

2023年7月3日(月)、国境なき医師団インターナショナルの会長クリストフ・クリストフ氏と、国境なき医師団日本の事務局長村田慎二郎氏による講演で、国際学部専門科目「国際協力論」の特別講義として行われました。

2022年度派遣 広島東洋カープアカデミーインターンシップ報告会を開催

2023年7月11日(火)、広島東洋カープアカデミーインターンシップに参加した学生による報告会を開催しました。約3年ぶりに再開された今回の派遣では、国際学部3年の赤畑利奈さん(学年は派遣当時)が派遣学生に選ばれ、報告会では、カープアカデミーでの体験や赤畑さんが研究テーマの一つとしていた「ドミニカ共和国の文化の理解」について、野球、食文化、行事などさまざまな面から報告を行いました。

おめでとうございます

国際学部の長史隆講師が「第39回大平正芳記念賞」とアメリカ学会「第28回清水博賞」を受賞

芸術学部デザイン工芸学科 視覚造形の学生らが「広島平和ポスター学生コンペティション2023」で受賞

情報科学研究科の岡山友昭准教授が一般社団法人日本応用数学会の「JSIAM Letters 論文賞」を受賞

芸術学研究科(博士後期課程)3年の土井紀子さんが「第2回 FEIPURO ART AWARD」で入選

芸術学部の教員・学生らが「再興第108回院展」に出品

第48回中国学生バドミントン選手権大会で国際学部1年の突沖花奈さんが女子B級シングルスにおいて優勝、第41回広島県学生バドミントンリーグ戦大会で男子団体2部において優勝

情報科学研究科(博士前期課程)1年の石山一聡さんと鈴木かなさんが「第22回情報科学技術フォーラム(FIT2023)」で奨励賞を受賞

芸術学研究科(博士後期課程)2年の下村祐介さんが「第49回宮島特産品振興大会」で「宮島ブランド大賞」を受賞、同研究科(博士後期課程)2年の任金来さんが「廿日市市議会議長賞」を受賞

ピースナイター2023「とうろう流し」委任式に本学学生が参加
2023年8月6日(日)、マツダスタジアムにおいて平和を願う「ピースナイター2023」が行われ、本学学生ボランティアたちが「とうろう流し」委任式に参加しました。

マイクロン・テクノロジー財団奨学生証書授与式を開催
2023年8月5日(土)、2023年度マイクロン・テクノロジー財団奨学金の奨学生3名に対して奨学生証書授与式を行いました。情報科学研究科では、科学技術分野で活躍する意欲のある女性の将来への意欲と希望を後押しするため、マイクロン・テクノロジー財団からの寄附金を財源とした「マイクロン・テクノロジー財団奨学金」を設け、奨学生を募集しており、この度、奨学生3名に証書が授与されたものです。

マレーシア科学大学の学生が来学
マレーシア科学大学(学術交流協定校)との交流の一環として、2023年8月19日(土)から26日(土)の間、学生20名および教員2名が来学し、短期受け入れプログラムを実施しました。

軟式野球部が昨年度に続き全国大会に出場
軟式野球部が第3回全日本大学軟式野球選抜大会に出場し、8月21日(月)に長野オリンピックスタジアムで行われた信州大学との1回戦で、見事サヨナラ勝ちを収めました。続く2回戦、8月22日(火)に行われた新潟医療福祉大学戦では初回から2点を先制するも2回裏に相手に逆転を許し、惜しくも敗退という結果となりました。

外部資金の獲得
本学の教員は、国の制度である科学研究費助成事業や民間からの研究費などを受けて活発な学術研究活動を行っています。これらの外部資金を活用し、独創的・先駆的な研究に取り組んでいます。

2023年度科学研究費助成事業採択状況<研究種目別>

研究種目名	件数	計
基盤研究(B)一般	1	5,850千円
基盤研究(C)一般	39	39,650千円
若手研究	9	12,220千円
研究活動スタート支援	1	910千円
合計	50	58,630千円

2022年度受託研究費・共同研究費・補助金・奨学金寄附金

区分	件数	金額
受託研究費・共同研究費	62	74,043千円
補助金	2	33,961千円
奨学金寄附金	10	9,561千円
合計	74	117,565千円

「WEST BREEZE」へのご意見・ご感想を募集します

広島市立大学 広報委員会
○E-mail: kikaku@m.hiroshima-cu.ac.jp
○Tel: 082-830-1666 ○Fax: 082-830-1656
WEST BREEZEのバックナンバーは、大学ウェブサイト「大学紹介」>「大学広報」>「広報誌「WEST BREEZE」」に掲載しています。

広報誌名
広島市立大学広報誌の表紙タイトル「W.B.」(「WEST BREEZE」の略称)は、広島市立大学のある西風新都にちなんで命名されました。
編集・発行 / 広島市立大学 広報委員会
発行日 / 2023年12月1日



開学30周年記念事業キャッチフレーズ

ひとと、まちと、これからも。広島市立大学

開学30周年記念事業の一環として、本学の学生や教職員、本学にゆかりのある方にキャッチフレーズを公募しました。33作品の応募があり、最優秀作品には、国際学部3年貞安 晴乃さんの「ひとと、まちと、ずっと。」が選ばれました。

その後、開学30周年記念事業実施本部小委員会の中で検討し、最優秀作品をベースに開学30周年記念事業の目的をより明確に「ひとと、まちと、これからも。広島市立大学」をキャッチフレーズとすることをしました。本事業において幅広く活用していく予定です。

このキャッチフレーズには、「本学がこれから10年、20年、30年先も「ひと」と「まち」に、ずっと関わり、貢献していきたい」という思いが込められています。

開学当時を知る教員によるリレーコラム
広島市立大学 開学30周年に向けて

地域連携の第一歩

★ 芸術学部 教授 永見 文人

私は、1994年の開学時デザイン工芸学科の常勤助手として31歳で赴任した。
当時、完成していた建物は、3学部の学部棟と本部棟、学生会館・食堂、体育館のみで、講堂もなく、芸術学部の第3・4工房あたりも土地の造成中であった。工期の遅れた芸術学部棟2階ロビーでは、入式当日も大理石タイルの貼り込み作業が行われていた。
開学1年目の10月初頭、広島市でアジア競技大会が開催された。広域公園のスタジアムと、A.CITYのツインタワーもこの大会のために建てられ、ツインタワーは、選手村として利用されることとなった。
芸術学部には大会を盛り上げるためのイベント依頼が舞い込み、デザイン工芸学科を中心とした芸術学部の学生から有志を募り協力することとなった。具体的には、大会期間の日中、第3・4工房あたりと大学エントランスから巨大なエア・オブジェ(バルーン)を上げる空間演出と、夜間の大学校舎のライトアップとレーザービームによって選手村方面に向けたメッセージの発信を行う試みであった。
学生たちは夏休みに入る8月から大塚地域の地形調査を行い、空間構成の要素やレーザーと特殊ライトによる視覚効果についての検証を始めた。吉田先生(当時は講師)の指導の下、学生と教員が協力して、シミュレーションとプレゼンのために縮尺200分の1の大学周辺の景観模型も作成した。私自身も体育館の模型を担当することとなり、建築図面から校舎の躯体までを立体に起こす作業は、寸法間違いを起すこと他者の担当箇所にも影響が及ぶため、思いの外、気を使う作業となった。
イベント本番中は学生や教員の弁当・飲み物の手配と、やたらと忙しかったことが懐かしく思い出される。このイベントへの取り組みが、芸術学部の「地域関連プロジェクト」の第一歩であり、教員・学生の学科専攻を超えた連携をより強固にしたと思われる。